校長先生の初恋物語

第60話　よしこさんのハートの目

　きのこ君の目の前に立った輝く少年とは、足長君です。足長君は、後悔しているきんに君の手を引っ張り、きのこ君のところまで行きました。2人の間に入ると、きのこ君の肩をやさしく抱えるようにして、
「きのこ君。気にするなよ。だれだって苦手なことはあるんだからな。きのこ君が遅いのはみんな分かっているから。」
と言いました。続いて、
「きんに君も本気で言った訳じゃないよな。周りのクラスにばかにされて、ついつい言っちゃったんだよな。きんに君の気持ちも分かるよ。ぼくだってばかにされてくやしい気持ちになったよ。」
きんに君はその言葉に泣き出してしまいました。
　そして最後に、２人に向かって、
「きのこ君が遅い分は、ぼくがもっともっと速く走るようにするからさ。だから、きんに君は、きのこ君のぶんまでもっと速く走ろうぜ。きのこ君は、きのこ君なりにがんばればいいさ。」
足長君のその言葉に、教室の重苦しい空気がすうっと軽くなりました。きのこ君も、足長君も、小さく「うんっ。」とうなずいていました。
　きんに君は、きのこ君に言いました。

いいよいいよ
ごめんごめんごめん